

柏ビレジ自治会便り

2018/3月号



柏ビレジ・ニュース

2018年3月17日

柏ビレジ自治会発行

自治会事務局（自治会館）

TEL 04-7132-1925

FAX 04-7132-1965

柏ビレジ自治会ホームページ <http://kashiwa-village.com/>

古くから日本人に親しまれている、桜。日本人の精神の象徴ともいわれ、私たちは満開の頃に咲き乱れる桜の姿に心を奪われます。「さくら」という名前は、何から由来しているのか…。

「さくら」の語源には諸説ありますが、特に日本神話に登場する女性の神様の名前が由来している説が有名です。日本神話に「木花咲耶姫(このはなさくやひめ)」という女性の神様が登場します。木花咲耶姫の名前には、桜の花が咲くように美しい姫という意味があります。「木(こ)の花」が桜、「咲耶(さくや)」が「咲く」をさし、「さくや」という意味が転じて、花そのものを「桜(さくら)」と呼ぶようになったのだとか。

桜の鑑賞をしつつ、桜の名の由来に心を馳せてみてはいかがでしょうか。

平成29年度を振り返って



自治会会长 竹田 徹

本年度も皆様のご支援・ご協力を得て、自治会長の職務を全う出来たことを有り難く思っています。「若い世代も含め誰もが住んでみたいと思い、住んでいる人達が住み続けたいと思う街づくり」をスローガンにこの3年間職務に精進して参りましたが、至らぬところが多々あり住民の皆様には大変申し訳なく思っています。この場を借りてお詫び申し上げます。

さて、この1年間を振り返ってみたいと思います。

5月のクリーンデーごみゼロ運動・11月の防災初期消火訓練・田中地区環境美化運動[クリーン作戦]については悉く行われたという感想でございます。特に初期消火訓練については雨の中の開催にもかかわらず、多数の皆様方のご出席をいただき感謝の念に耐えません。災害はいつ・どんな状況で起きるかわかりません。そういう意味では大変有意義な開催であったと考えています。しかしながら、3つの行事とも参加者がいまいち少ないというのが正直なところで御座いまして来年度は一人でも多くの方々の参加を望みます。

自治会・福祉部の役割について



福祉が進んでいる北欧の国々。そこでは人が生きていることそのものを福祉と捉え、生まれる前から人生を終えるまで、国がしっかりと国民を支えていきます。生まれる前から、生を終えるまで、出産費用、幼児教育から大学までの学費、病気による入院、高齢期の費用、持ち家制度は見られず、高齢

期による障害の程度により、その人にふさわしい住まいに引っ越して、そこで、介護、看護がなされます。貯金の心配もなく、安心な国の福祉があります。訪問したデンマークでは、所得の70%という高い税金を払っています。しかしその方が良いなあと思われる福祉が繰り広げられていました。

ところが、資本主義の競争社会日本は、とうとう高齢者を商売の道具にし始めたのではないかとの印象があります。介護保険が出来た、それでは国が面倒を全部見ててくれるのか? というとけっしてそうではありません。本当に個人が様々な選択肢の中

夏季・冬季の防犯パトロールについては、支部長・班長さんたちのご協力により無事実施することが出来ました。特に門灯の不点灯については防災部の工夫も有り減少したこと嬉しく思います。来年度も多くの方の参加と門灯不点灯の減少に期待しております。自分たちの街は自分たちで守ることが大事ではないでしょうか。

柏ビレジ主催の夏祭りについては、子ども会中心の前夜祭については終了とほぼ同時に降雨でしたが、本祭りは生憎雨が開催時より降り、雨の中の盆踊りは行われましたが花火は延期となりました。踊りの会の皆様のご英断感謝いたします。2週間後の花火大会は天気も良く大勢の方が観覧する中成功裡に終了しました。皆様よりの多大なご寄付有難う御座いました。今年に入り餅つき大会が1月に開催されました。昨年とは打って変わって天気も良く気温もほどほどで2000人程度の集客により大成功と言えるのではないでしょうか。特に餅つきのデモンストレーションでは多くの子供さんが参加され大変嬉しく思いました。多くのボランティア団体の皆様、ご協力有難う御座いました。

活性化問題・環境問題などについても積極的に取り組みました。交通問題・児童や若い世代向け施策などの活性化対策、冠水・湧水・歩道の補修・樹木の繁茂・空き家問題・水辺の公園の水質問題などの環境対策について地道な活動を続けております。来年度以降も引き続き住みよい街を目指し努力していきたいと存じますので、温かく見守っていただければ幸いに存じます。

皆様のご協力なくして自治会は存在しませんので何卒宜しくお願い致します。

から悔いのないような生き方を賢く選んで生きていく必要があります。

柏市では東北地震が発生した後、恐らく國の指導なのでしょうか、高齢者や障害者をいち早く避難させる仕組としてKネットを作りました。國は指示するだけ、市は市民を当てにし、その作業を自治会、町内会に任せているという現状があります。しかし、毎年交代の自治会役員が受け持つ仕事としてはいさか重いものがあります。特に守秘義務というものがあり、信頼関係があってこそ、「助け助けられる関係」が成り立つ福祉とは相反するところがあり、市とも話し合いを持ちたいテーマのひとつです。

さて、お祭りなどの行事は街の活性化に繋がり、愉しむための街の財産です。街そのものの問題や不便を解決するための自治会活動は自治会が音頭を取って続けていくのはとても意味があります。福祉部でも花野井小学校と田中小学校の作品展を毎年開催しています。

最後になりますが、自治会・福祉部としては、いろいろと制約のある中、Kネットの運用や福祉に関しての講演会や知識を広めるなどの活動を通して、皆様の老後の幸せの選択にいくらかでも貢献できればと思っております。(福祉部長 猪早 恵美子)

平成29年 空家実態調査報告について

昨年10月から11月にかけて、支部長・班長の皆様のご協力を得て、空家の実態調査を実施し、2月の自治会役員会に結果報告をおこないました。この調査の目的は、公道・隣家への樹木のはみ出しや繁茂、家屋の劣化等を把握し、問題のある家屋の所有者に適切な処理を要請し、対処していただくためのものであります。今回の調査は、平成26年度、平成28年度に続く第3回目となりました。

調査結果の概要は、**空家戸数が62軒、空家率は3.9%**となりました。空家の軒数は平成26年54軒、平成28年58軒であり、年々緩やかながら増加傾向にとなっています。**全国平均の空家率は14%弱**と言われ、柏ビレジでは全国平均を大きく下回っており、現時点では問題のない水準と言えます。

空家の状況は、平成29年に新規の空家が29軒、平成28年・29年度と2年連続の空家が20軒、平成26年・28年・29年と4年連続の空家が12軒です。また、樹木や雑草が繁茂した空家は22軒、家屋の一部が劣化しているものが7軒という結果ですが、対応を急ぐ必要のある家屋は1軒もありませんでした。しかし今回の調査で自治会として所有者に対し対処を要請すべきと判断した家屋が5軒あり、既に一部については、行政にも要請し改善への取組みをおこない逐次取組みを進めていく予定です。

ところで、今回の調査結果の特徴としては新規空家軒数が29軒もあるにも関わらず、空家総数は若干増で留まっています。このことは、新しい住民の方がビレジに新規に入居され、一定の割合で住民の入れ替わりがあることを示しています。平成29年に自治会に新規入会届をだされた方の75%が40歳台以下の若い子育て世帯であり、柏ビレジの活性化にとってうれしい現象と言えます。若い世代に魅力のある柏ビレジを

創っていくことが、極めて大切であると言えます。植栽等の整備管理や家屋の管理は空家や居住中に関らず重要であり、良好な住環境や防犯上の観点からも重要な課題であると言えます。

空家の問題は、高齢化の進歩から空家は今後も増加すると考えられ、移転情報の早期把握や空家の維持管理のための情報提供に努める必要があり、自治会としては空家実態調査を柏ビレジにとって重要な課題であると認識しており、今後も継続した取組みをおこなう考えであります。

(空家対策部会部長 高橋 秀彰)

